

献辞

丹治初彦先生は、二〇一一年三月三一日をもって神戸学院大学をご定年で退職され、同年四月より神戸学院大学名誉教授とされました。

丹治先生は、一九七一年に弁護士登録をされ、一九九八年以降神戸学院大学法学部において、非常勤講師・客員教授を努められ、法学部の教育にもご尽力いただきました。法科大学院設立と同時に法科大学院教授として、刑事訴訟実務・法曹倫理・エクスターンシップをご担当され、この間、神戸学院大学評議員として全学的な視点から大学の運営も携わっていただきました。

法科大学院においては、特に学生の信望も厚く、また、法科大学院研究科委員会においても、私たち研究者教員とは違った視点から教育・研究についても様々な貴重なご意見を頂き、同時に、研究科委員会の構成員として積極的に――弁護士としての業務も一方では従前どおりお続けになりながら――種々の業務にもかかわっていただきました。私たち研究者教員も教育・研究に対して常に大きな刺激をうけました。

法科大学院制度は現在大きな曲がり角に立っているように思われます。そのような時期であるからこそ、丹治先生がご定年とはいえ退職されましたことは法科大学院にとっては大きな痛手あります。しかし、客員教授としてなお教壇に立っていただき私たちは心強い思いであります。

丹治先生におかれましては、これまで同様ご指導いただきますようお願いいたします。今後の先生のご健勝

と益々のご活躍を祈念し、謹んで本号を献呈させていただきます。

二〇二二年三月

大学院実務法学研究科長 田中康博